

大谷大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 2024年度自己点検・評価について

2025年3月26日
教育推進室

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムは2024年度より実施しており、現時点ではまだ修了者はいない。2024年度の履修者は次の通りである。必修科目「ICT入門」45名、「データサイエンス入門」14名、「データサイエンス基礎」10名、「情報と倫理」191名、「PC利用による表計算応用」11名。</p> <p>2025年度より、構成する科目のうち1科目を第1学年の必修科目とするが、その他の科目の履修の状況も確認する。2025年度までにおいて、情報教室で対面実施している科目では定員を設定せざるを得ない状況のため、授業の実施方法については今後も教育推進室で検討を行う。</p> <p>なお、各授業における理解度をはかる課題等の提出状況については、LMSで把握することが可能である。</p>
学修成果	<p>本プログラムを構成する科目等では、「AIを扱う上で必要となる統計の知識や、データ分析を行う上でのルールなどの基礎知識を体系的に理解する。」「活用事例に沿ったシチュエーションでの統計の体験を通じて、統計を活用することができる。」等を学修成果として想定している。</p> <p>各授業においては、シラバスに基づき適切に到達状況を確認して厳正な成績評価を行っている。</p> <p>今後は、外部のアセスメントテストを活用して測定すること等も教育推進室において検討を行う。</p> <p>上記により、修了者はいないが一定の学修成果が得られていると考えられる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の理解度	<p>全科目・全履修者を対象に実施している「授業評価アンケート」にて、「この授業の内容を理解または習得できましたか」という質問の回答で確認しており、回答者のうち構成する科目の平均は81.85%が「そう思う」・「どちらかと言えばそう思う」と回答し、高い結果となっている。</p> <p>教育推進室で状況の把握・分析を行うとともに、「授業評価アンケート」の結果は各担当教員も確認できるため、必要に応じて改善を行っている。</p> <p>なお、授業内でも定期的に設定する課題で学生の理解度を確認している。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>全科目・全履修者を対象に実施している「授業評価アンケート」にて、「全体的にみて、この授業はあなたにとって有益で満足度の高い授業でしたか」という質問の結果は、回答者のうち92.26%が「そう思う」・「どちらかと言えばそう思う」と回答し、高い結果となっている。よって、この結果を維持しつつ、受講した学生が他の学生へ推奨することを企図する。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本プログラムを構成する必修科目の「ICT入門」は2025年度から全学必修となることが決まっており、履修者数や履修率の向上に向けて推進している。また、毎年度新入生に配付し、大学HPでも公開している「履修要項」において、本プログラムの内容を掲載し、学生の履修を推進している。</p> <p>本プログラムで「選択必修科目」としている「情報と倫理」では、開講元である社会学部だけではなく、「自己選択科目」（卒業にあたっては必修ではないが、修得した場合は卒業所要単位に計上される科目）としての履修となる他学部 of 学生も受講しており、全学的な興味・関心があると思われるため、本プログラムの効果的な周知を行い、学生の履修を推進する。</p>
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムを構成する必修科目の「ICT入門」は2025年度から全学必修となることが決まっており、履修者数や履修率の向上に向けて推進している。また、毎年度新入生に配付し、大学HPでも公開している「履修要項」において、本プログラムの内容を掲載し、学生の履修を推進している。</p> <p>本プログラムで「選択必修科目」としている「情報と倫理」では、開講元である社会学部だけではなく、「自己選択科目」（卒業にあたっては必修ではないが、修得した場合は卒業所要単位に計上される科目）としての履修となる他学部 of 学生も受講しており、全学的な興味・関心があると思われるため、本プログラムの効果的な周知を行い、学生の履修を推進する。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学で毎年度実施している「業界・企業研究セミナー」にお越しいただいている企業に、本プログラムの内容・手法等への意見を聞くアンケート調査を実施し、教育推進室で確認のうえ、改善へつなげる予定である。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>モデルカリキュラムの「導入」部分に準じた内容を展開するとともに、事例紹介では、実際に京都人口統計データやそれを活用した公的な取り組み事例などを紹介し、身近で活用されているデータサイエンス事例と、今、学んでいることをリンクさせて紹介することで「学ぶ楽しさ」を理解させている。</p> <p>また、これからの社会で受ける恩恵、社会で出た際に求められる役割、どのように社会が豊かになるのか、等について紹介することで「学ぶことの意義」を理解させている。</p> <p>「授業評価アンケート」の「有益度・満足度」、「ものの見方や考え方への知的刺激」の項目をもとに評価・検証を実施する。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>「授業評価アンケート」の結果や企業等へのアンケート結果をもとに、学生に「分かりやすさ」の観点から、授業の内容について教育推進室で検討を行う。</p>